

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立外町小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 唐津市教育委員会が勧めている「学力向上アクションプラン」に則って、「本時のめあての提示」「パーソナル・グループ・クラスワーク」「ふりかえり」という流れの授業展開が、ほとんどの学級でできている。しかし、県の学力調査では、ほとんどの領域で県平均を下回っており、更なる授業力向上に努めていく必要がある。 避難訓練等では、受け身的な動きで、自分で判断して行動できていない児童が多い。令和2年度は、国の「学校安全総合支援事業」の災害安全の指定校となっていることもあり、自分の命は自分で守れるよう、主体的に判断して行動できる児童の育成が求められる。
2 学校教育目標	『21世紀を生きる力』を育む子ども ～自ら学び高め合う、たくましく心豊かな外町っ子を育てます！～
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①「学力向上」→「がんばった」「できた」「ほめられた」という体験をつまさせながら、学習意欲を喚起するとともに、「わかる授業」「楽しい授業」を展開し、学力向上を図る。 ②「災害安全への意識の高揚」→授業等での安全教育の場、避難訓練等の安全指導の場を生かし、災害安全に対する児童の意識高揚を図る。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・校内研修等でマイプランの活用方法を共有する場、達成状況を確認する場を設け、取組の促進を図る。	B	・学力向上アクションプランについて、研修の際に課題などを共有し、取組に対する意識が向上した結果、アクションプランの個人評価の達成率がどの項目も80%を超えた。	B	・外町小学校の先生方は頑張っていると思います。保護者アンケートの結果を見ても「楽しく学校へ行っている」児童が多いことから、良い学習ができていると思われる。	学力向上対策コーディネーター 学習部
	○学習内容の定着に向けた分かりやすく楽しい授業の実践	○授業に関するアンケート(「授業が分かりやすいか」「授業が楽しいか」)において肯定的な回答をした児童80%以上	・授業の終わりや単元の終わり等に、学習のふりかえり(「学習内容が分かったか」「学習は楽しかったか」)の時間を設ける。 ・「がんばった」「できた」「ほめられた」と児童が感じる場を設ける。	A	・学習規律を身に付けさせるとともに、できたことを大いにほめることで学習への意欲付けを行い、「分かった」「楽しかった」という肯定的な回答がさらに多くなった。また、算数など必ず前時の振り返りを授業で行い、内容の定着を確かめ、授業に生かすようにした。	A	・「分かった」「楽しかった」の数値目標が達成されていてよかった。年度当初の予定を100%に設定し、それに向かうことで更に力をつけさせてほしい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・「自己肯定感の高まり→自他への思いやり」につながる年間を通した人権集会を数回設定する。 ・道徳に関するアンケートを実施する。	A	・年度後半も「ハートフル週間」や「ハートフルタイム」を行い、自己有用感も高めることができた。どの職員からも、是非来年度も希望するほどの取組となった。	A	・豊かな心を育てるには、本に触れることも大切。来年度は、読書に親しむ児童の育成に焦点を当ててほしい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について、組織的な対応ができていると回答した教員90%以上	・毎月1回、いじめの早期発見につながるアンケートを実施する。 ・毎週1回、気になる児童の情報共有の時間を設定する。	A	・毎週1回の子どものタイムで気になる児童や学校生活で気になることなど、些細なことでも情報共有することができた。いじめ対応にもつながり、組織的な取組が実施されている。	A	・「子どもタイム」を確実に設定して、いじめ防止等の対応を組織的に行っていた。	生活部
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力しようとしたと回答した児童80%以上	・授業や学校行事等を通して、児童が夢や目標について自ら考える時間を設ける。 ・活動のふりかえり(「目標を達成するためにがんばったか」)の時間を設ける。	A	・自分達にできることを前向きに考え、新しい取組を実現していくこと、どの学級も学年も努力した。また、教師は、子ども達の発達段階に応じて、任せたり、助言したりしながら、目標や夢の実現に向けて気持ちを高めている。	A	・今年度は学校行事の様子を見たり、外町ボランティアで児童と触れ合ったりする機会が少なかったが、目標の実現に向けて気持ちを高められたと聞き喜んでいる。	特活部
●健康・体づくり	●安全に関する資質・能力の育成	●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・各学級で、毎日下校する前に、交通事故に気をつける話をする。 ・低、中、高学年の実態に応じた、交通安全教室を開催する。	A	・登下校については、各学級での日々の指導に加え、安全面について、適宜放送等で注意喚起をし、意識づけをすることができた。児童の交通事故も0(ゼロ)であった。	A	・登下校の安全は地域としても協力をしていきたいと思う。	生活部
	○災害安全への意識の高揚	○災害安全に対して、自分の命を守るために、自分で判断し、行動しようと思う児童90%以上	・災害安全に関する教職員向けの研修会と児童に対する講演会を行う。 ・児童が自ら考えてより良く動く避難訓練を実施する。	A	・学年に応じた災害安全に対する教材を選び、学習を行い、全体で共有することができた。児童の安全意識も高まり、放送を聞く姿勢など、訓練時の児童の態度も向上している。	A	・災害教育を推進していることもあり、避難訓練に対する意識も高いと聞いた。今後は、子ども達に想像力をつけさせ、危険予測ができるように育ててもらいたい。	研究主任
	○体力の向上	○運動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・体育委員会によるチャレンジコーナーやジョギングタイム等を設定するとともに、「さがんキッズスポーツチャレンジ」を推奨する。 ・長縄や竹馬など、児童の活動意欲を高めるための場や道具を準備する。	A	・低、中、高学年に「スポーツチャレンジ」の実施を呼びかけたことで、取り組みに参加する学級が増え、学校全体で、体力を高める運動に取り組めた。児童の活動意欲を高めるための場や道具を準備したことで、全校で運動に取り組める機会を設けることができた。	A	・「スポーツチャレンジ」で、県で1位になったりシルバー賞をとったりするなど、体力向上の取組がしっかり行われている。	保体部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・金曜日に定時退勤日を設定する。 ・月曜日～木曜日の最終勤務時間のめやすを示す。 ・内容を精選し、会議の回数や時間を減らす。	A	・年間を通して、時間外勤務月45時間のラインを超えなかった。月～木の最終退勤時刻に変化はなかったが、遅くまで残る職員数は減った。また、職員集合の機会を必要最小限にすることで、時間をつくり出した。	A	・とても大変な職場だと思っているので、45時間という基準を下回るのは難しく、プレッシャーもあると思う。本校で行っている工夫や取組を、今後も続けて効率を上げていきたい。	管理職
	○業務改善への意識の向上	○1年間で業務改善を3つ以上行う。	・学期に1回、一人一つ、業務改善案を考える場を設定する。	B	・職員からの反省の中に業務改善についての要望を出してもらい、改善に努めた。	B	・会議の時間短縮等の工夫を、これからも続けてほしい。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○特別支援教育の充実	○教員の特別支援教育への意識の向上と支援のあり方の理解	○特別な支援が必要な児童への支援のあり方が理解できた、またはだいたい理解できた教員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・教育支援委員会を通して、情報共有を行う。	A	・情緒的な困難さを持った児童の支援の在り方や周りの児童への指導を研修し、低中高の発達段階に応じた取組について話し合い、実践することができた。支援学級担任が、学級担任と密に話し合いを持ち、支援の必要な児童の発見に努め、支援委員会で支援体制を整え、職員が連携して取り組むことができた。	A	・特別な支援が必要な子ども達のために、積極的に研修を深めていると聞いた。外町小の先生方にはこやかで気持ちがいいので、その包容力で子どもを包み込んでほしい。	特別支援学級担任
●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育								
5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は災害教育の指定を受け、主体的な判断と積極的な行動ができる児童の育成をめざした取組を行い、命や災害に対する児童の意識の変容が見られた。来年度は教科を中心とした校内研を行うが、安全に対する意識の向上は様々な教育活動の中で図っていく。 保護者アンケートの結果を見ると、児童の「読書」「挨拶」「言葉遣い」が課題であるという意見が多かった。「心の土壌を豊かにする」「より良い関係をつくる」「相手を思いやる」児童を育てるための取組を今後も継続して行っていく。 新型コロナウイルス対策を講じながらの教育活動となった1年であった。感染収束の目は未だ立っていないので、次年度も時には厳格に時には柔軟に対応しながら、児童の安全と教育的効果を図っていく。また、心の教育も推し進めていきたい。 							